

宮崎大会 研究主題

自ら学び、考え、社会を拓こうとする子どもを育てる社会科学習
～思考力・判断力・表現力を育む授業を通して～

I 主題設定の理由

現代社会は、情報過多・国際社会の進展や価値観の多様化など、人々の生活環境がめまぐるしく急速に変化している。また、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等により産業構造や雇用環境が急速に変化し、さらには急激な少子高齢化が進行する中で、次世代を切り拓く子どもたち一人一人が、個人と社会の成長につながる新たな価値を生み出していくことのできる“持続可能な社会の形成者”として、豊かにたくましく成長していくことが期待されている。

このような社会であるからこそ、民主的、平和的な国家・社会の形成者としての自覚をもち、自他の人格を互いに尊重し合うこと、社会的義務や責任を果たそうとすること、社会生活の様々な場面で問題解決に向けてよりよい方向を考えたり公正に判断したりすることなどの態度や能力が、子どもに身に付いていくようにしなければならない。将来の主権者にふさわしい公民的資質の基礎を育てること、つまり、よりよい社会の形成に参画する資質や能力の基礎を育てることをめざす社会科の役割は、ますます重要になっていると考える。

新学習指導要領の社会科の目標には、「社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。」と示されており、小学校社会科において育成を目指す資質・能力を「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の3つの柱に沿って明確化し、社会的事象の見方・考え方を、資質・能力全体に関わるものとして位置付ける方向で教科の目標の改善が図られている。

宮崎県の実態を、今年度実施された「みやざき小中学校学習状況調査」の中学校1年生の社会科の結果から見てみると、「複数の資料を関連付けて読み取ること」「学習問題の解決に必要な情報を選択し、その情報を関連付けたり総合したりして説明すること」などが課題として挙げられている。つまり、資料を読み取ることをはじめ、読み取った事実から、考える・判断する・表現するといった社会的な思考力・判断力・表現力を育てていくことが大きな課題となっている。

これまで本県小社研では、平成27年度より、研究主題を「自ら学び、考え、社会を拓こうとする子どもを育てる社会科学習」、副題を「思考力・判断力・表現力を育む授業の構想」とし、問題解決的な学習を核とした単元構成及び授業構成に関する研究を進めてきた。県内各地区での授業実践や研究発表等を通して、県内の先生方に授業構想の基本的な考え方は少しずつ浸透してきているものの、今回の九州大会において、さらに社会科の授業の在り方について情報発信を行っていきたいと考える。また、次年度から完全実施となる新学習指導要領の趣旨や方向性を考慮し、本県小社研の研究を進めてきている。

そこで、これまでの研究の基本的な考え方は継続しながらも、問題解決的な学習を取り入れた授業実践により重きをおきたいという考えのもと、昨年度より副題を「思考力・判断力・表現力を育む授業を通して」と変更することとした。思考力・判断力・表現力を育む具体的な授業の在り方について研究を進めるとともに、授業実践を積み重ねながら、指導方法の工夫・改善を図ることにより、「自ら学び、考え、社会を拓こうとする子どもを育てる社会科学習」をめざしたいと考え、本主題及び副題を設定した。

Ⅱ 主題設定の基本的な考え方

1 社会科で育てたい「資質・能力の基礎」とは

○ 生きて働く「知識・技能」の習得

地域や我が国の国土の地理的環境，現代社会の仕組みや働き，地域や我が国の歴史や伝統と文化を通して社会生活について理解するとともに，様々な資料や調査活動を通して情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

○ 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成

社会的事象の特色や相互の関連，意味を多角的に考えたり，社会に見られる課題を把握して，その解決に向けて社会の関わり方を選択・判断したりする力，考えたことや選択・判断したことを適切に表現する力を養う。

○ 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養

社会的事象について，よりよい社会を考え主体的に問題解決しようとする態度を養うとともに，多角的な思考や理解を通して，地域社会に対する誇りと愛情、我が国の将来を担う国民としての自覚，世界の国々の人々と共に生きていくことの大切さについての自覚などを養う。

2 自ら学び，考え，社会を拓こうとする子どもとは

【自ら学び，考える子どもとは】

- 学習や生活の中で，社会に見られる課題をつかみ，知識と技能を活用して主体的に考え，表現しながら課題を解決しようとする子ども

【社会を拓こうとする子どもとは】

- 学習したことを生活に生かし，よりよい社会を考え続ける子ども

3 思考力・判断力・表現力を育む必要性とは

- 生涯にわたり学習する基盤が培われるよう，基礎的な知識及び技能を習得させるとともに，これらを活用して課題を解決するために必要な思考力，判断力，表現力その他の能力をはぐくみ，主体的に学習に取り組む態度を養うことに，特に意を用いなければならない。

(学校教育法30条2項より)

- 公民としての資質・能力の基礎の育成～「思考力・判断力・表現力等」

「社会的事象等の意味や意義，特色や相互の関連を考察する力，社会に見られる課題を把握して，その解決に向けて構想する力や，考察したことや構想したことを説明する力，それらを議論する力」の基礎を育成することを求めている。

(新学習指導要領 社会編より)

- 「説明」，「論述」，「解釈」，「判断」，「読み取り」，「表現」といった「言語活動」の手立てを意図的に位置付けた授業展開を行い，「思考力・判断力・表現力」を育成することが大切である。

(宮崎県教育研修センター資料より)

4 思考力・判断力・表現力とは

☆「思考力・判断力」・・・社会的事象の特色や相互の関連、意味を考える力

子どもがもっている知識や資料活用などで得た情報をもとに、「比較」「関連」「総合」などの思考方法を駆使して学習問題を追究・解決するために考える力

☆「表現力」・・・社会的事象について調べたことや考えたことを表現する力

子どもが観察や資料活用などを通して調べたことや考えたことを言語などで表現する力

【子どもの発達段階から（新学習指導要領より）】

- 第3，4学年… 社会的事象の特色や相互の関連，意味を考え，社会に見られる課題を把握して，その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断し，考えたことや選択・判断したことを表現する。
- 第5，6学年… 社会的事象の特色や相互の関連，意味を多角的に考え，社会に見られる課題を把握して，その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断し，考えたことや選択・判断したことを説明したり，それらを基に議論したりする。

5 小学校社会科で育てる思考力・判断力・表現力とは

	何を	どのように	どんな場面で育てるか
思考力	○ 社会的事象の意味 ○ 社会的事象の特色や相互の関連	○ 比較・分類したり総合したり，関連付けたりして	○ 学習問題や予想，学習計画を考える場面 ○ 調べたことをもとにして社会的事象の意味などを考える場面 など
判断力	○ 社会的事象の価値や課題 ○ よりよい社会の在り方，自分たちの社会への関わり方	○ 多面的，総合的にとらえて公正に	○ 学習したことをもとに，私は何をすればよいか，これから何が大切かなど，自分の考えを決める場面 ○ 学習したことの中から自分たちが協力できることを選び出す場面 など
表現力	○ 調べたことや考えたこと	○ 言語などで ○ 根拠や解釈を示しながら図や文章などで	○ ノート，作品などにまとめる場面 ○ 話し合う，発表する，提案する場面 など

6 小学校社会科における「見方・考え方」（社会的事象の見方・考え方）とは

- 社会的事象の意味や意義，特色や相互の関連を考察したり，社会に見られる課題を把握して，その解決に向けて構想したりする際の「視点や方法（考え方）」であると考えられる。
(新学習指導要領 社会編より)
- 社会的事象やそれを構成する事実を見出すこと（見方）とその事象の意味を解釈すること（考え方）の相互作用によって成り立つものである。
- 比較・関連付け，総合などの思考方法と社会科の内容とを結び付け，社会科における思考力，判断力，表現力の育成を支えるものである。

Ⅲ 研究の全体構想図

【社会科目標】

社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、グローバル化する国際社会を主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。

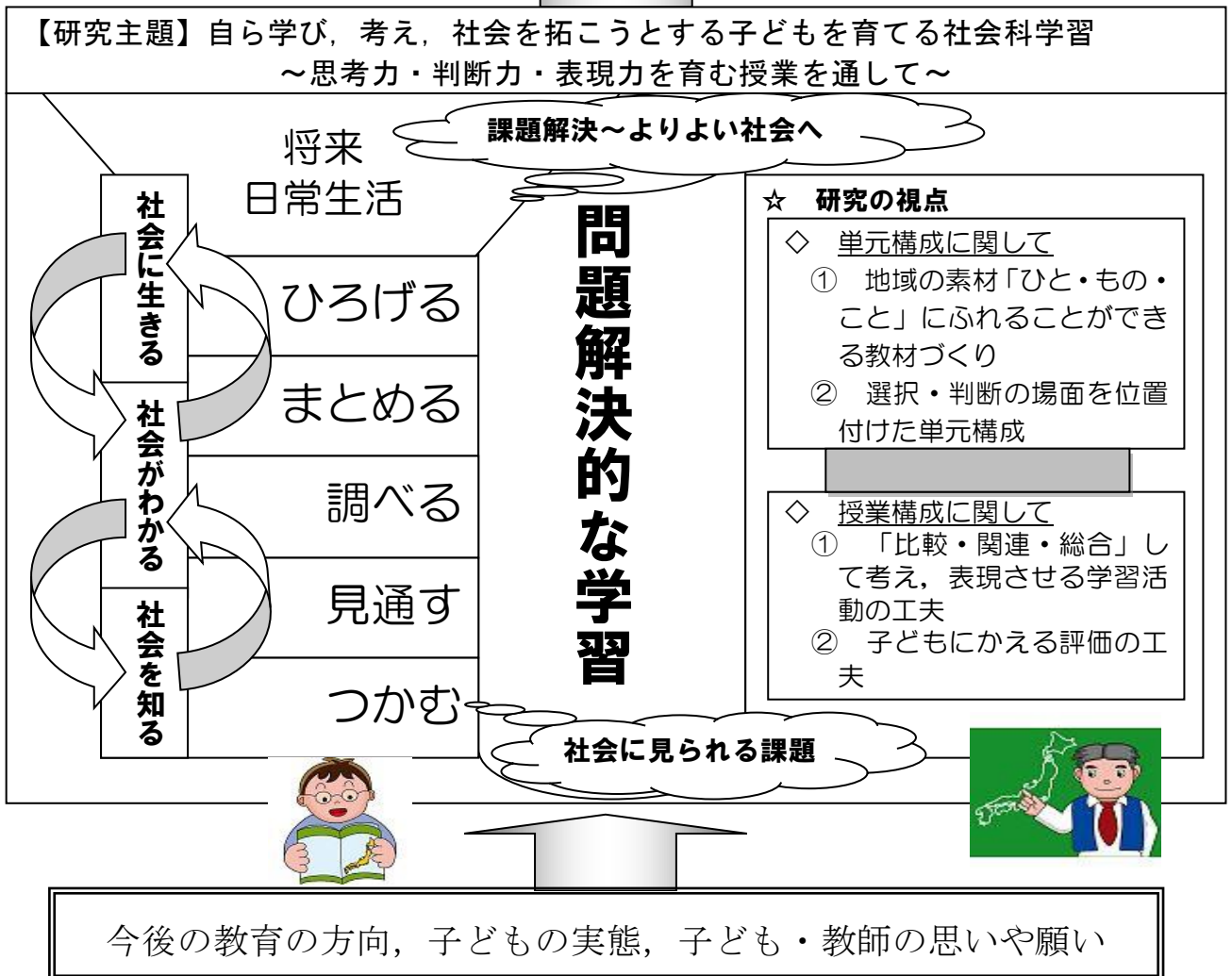
(1) 地域や我が国の国土の地理的環境，現代社会の仕組みや働き，地域や我が国の歴史や伝統と文化を通して社会生活について理解するとともに，様々な資料や調査活動を通して情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 【知識及び技能】

(2) 社会的事象の特色や相互の関連，意味を多角的に考えたり，社会に見られる課題を把握して，その解決に向けて社会の関わり方を選択・判断したりする力，考えたことや選択・判断したことを適切に表現する力を養う。 【思考力，判断力，表現力等】

(3) 社会的事象について，よりよい社会を考え主体的に問題解決しようとする態度を養うとともに，多角的な思考や理解を通して，地域社会に対する誇りと愛情，我が国の将来を担う国民としての自覚，世界の国々の人々と共に生きていくことの大切さについての自覚などを養う。 【学びに向かう力，人間性等】

【めざす子どもの姿】

学習や生活の中で，社会に見られる課題をつかみ，知識と技能を活用して主体的に考え，表現しながら課題を解決し，よりよい社会を考え続ける子ども



今後の教育の方向，子どもの実態，子ども・教師の思いや願い

IV 新学習指導要領改訂の方向性と研究との関連

何ができるようになるか

☆社会科の目標

→めざす子どもの姿

学習や生活の中で，社会に見られる課題をつかみ，知識と技能を活用して主体的に考え，表現しながら課題を解決し，よりよい社会を考え続ける子ども

→研究主題

自ら学び，考え，社会を拓こうとする子ども

→副題

思考力・判断力・表現力

何ができるようになったか（子どもにかえる評価）

何を学ぶか

☆社会科の学習内容

→社会に見られる課題

地域の素材など

→「社会を知る」「社会がわかる」「社会に生きる」

どのように学ぶか

☆問題解決的な学習

→「つかむ」「見通す」「調べる」「まとめる」「ひろげる」

→地域の素材「ひと・もの・こと」にふれることができる学習活動

→「比較・関連・総合」して考え，表現させる学習活動

→選択・判断の場面がある学習活動